

人は変化を恐れ、つい現状維持を選びたくなるものです。しかし、人生も経営も、一步を踏み出さなければ新しい世界は開けません。

神奈川県茅ヶ崎市で建築リフォーム・リノベーション事業を営むY氏は、会社員時代に建築業界の厳しい現実を目の当たりにしてきました。長時間労働や人材不足、将来への不安など、多くの課題を抱える業界の中で、真面目に働く人ほど報われにくい状況に疑問を感じていたのです。それでも多くの人々に支えられながら経験を積み重ね、独立という大きな決断を下します。その決断こそが、人生を大きく変える最初の一步となりました。

独立後、Y氏は神奈川県倫理法人会の倫理経営塾に入塾します。経営の知識や技術だけでなく、人としての在り方や経営者としての心構えを学びたいと考えたからです。学びを深める中で、事業計画書は自分との約束であるという気づきをえました。経営理念は会社が目指す目的地であり、事業計画書はそこへ到達するための地図です。理念を実現するために何を行ない、どこへ向かうのかを明確にする重要性を学びました。

また、純粹倫理の学びである「まず自分が実践する」を大切にし、自宅のリフォームにも取り組みました。住まい手の立場を経験することで、お客様の期待や不安、工事期間中の心情をより深く理解したいと考えたのです。創業以来、営業、見積り、発注、現場管理、請求まで多くの業務を一人で担ってきたY氏ですが、経営理念である「人と人とのつながりを大切にし、幸せな未来を共につくる」を



自ら踏み出した一步が 成長への道を教えてくれる

実現するには仲間の力が不可欠だと考えるようになります。そして「社員を雇おう」と決意し、初めて正社員の採用に踏み切りました。

しかし、現実には思い描いた通りには進みません。最初に採用した社員は数カ月で退職し、その後に採用した社員も同じように退職してしまいます。二度にわたる採用の失敗は、Y氏にとって大きな挫折だったことでしょう。

それでもY氏は人に原因を求めず、自らを省みました。そしてまず、自分ですら「自分が早い」という意識が自分の中に残っていたことに気づいたのです。教育体制は整っていたか。役割や責任は明確だったか。安心して働ける環境は整っていたか。振り返る中で業務の仕組み化や教育体制の不足、仕事を任せる準備不足など、多くの課題が見えてきました。

もし採用に踏み出していなければ、こうした課題に気づくことはなかったでしょう。現在はパートスタッフを迎え、業務分担と仕組みづくりを進めながら、着実に経営基盤の強化に取り組んでいます。

勇気を出して踏み出した一步が、必ずしも成功につながるわけではありません。しかし、その一步は確実に学びと成長をもたらしてくれます。倫理経営が教えるのは、失敗を他人や環境のせいにならず、まず自らを省みて改善する姿勢です。大切なのは結果だけを追うのではなく、課題から目を背けず実践を重ね、自らの成長を通して会社を発展させることです。その積み重ねこそが経営者としての器を広げ、社員や顧客との信頼を育み、企業の未来を切り拓く力になるのではないのでしょうか。